



## 日本朝鮮研究所初期資料関係年表／目次

## 目次

戦後、日本朝鮮研究所という組織が存在し、一時期、広く活動していたことについて、一部研究者によつて語られることがあつても今日、殆ど忘れ去られた組織であると言つても過言ではない。今回、本書を刊行するのは、研究所の初期の活動を知る唯一の資料であること、戦後、日本人自身が如何に朝鮮問題の諸課題について取り組んできたかが、今日の日、朝・韓をめぐる政治・社会情況の中で新たに問われているのではないかと考えるからである。

さらに、在日朝鮮人資料叢書の一つに加えたのは、戦後の朝鮮近現代史研究を日本の植民地支配の責任の視点から問うた初めての組織であり、今日の日本における朝鮮・在日朝鮮人研究の原点の一つがここにあると考えるからである。

日本朝鮮研究所が設立されたのは六〇八年安保闘争の直後の一九六二年であった。経済成長は維持されていたものの朝鮮戦争の直後であり、安全保障条約が示す戦争の影は、日本の近代以降の戦争を意識させ、朝鮮に関心を持つ人々の間では朝鮮との関係を見直そうという気運が高くなつてゐた。安保条約を補完すると考えられてゐた日韓条約交渉の進展は、新たな危機感として日本人に受け止められた。朝鮮史の専門家である旗田義氏を中心とする朝鮮で学んだことのある研究者や寺尾五郎氏のような朝鮮民主主義人民共和国を支持し、訪問し、交流を深めようとしていた人々がいた。こうした人々が日本人自身の手による朝鮮研究組織をつくるとしたのは自然なこととして受け止められた。日本史、中国史の研究者にも支持されていた。準備には寺尾と藤島宇内氏があつた。

設立趣旨は以下の通りである。

## 設立趣意書

今日、朝鮮は、最も近くて最も遠い国となつてゐます。

日本の歴史は朝鮮ときりはなせない関係で進んできたにもかかわらず、明治以来、日本人の眼は常に西洋にむけられており、隣国朝鮮の政治・経済・文化の科学的研究はほとんど無視されてきました。

このため、隣国同士の相互理解の必要がますます大きくなつてゐる現在、いまだに少なくならぬ日本国民の朝鮮觀は、誤解と偏見にみちたままであると断じても過言ではないあります。

われわれ日本国民は、北朝鮮で行なわれてゐる建設事業についても、南朝鮮のあいつぐ政治的激動の本質についてもよく知つてゐるとは申せません。特に最近 在日朝鮮人帰國問題、日韓会談、日朝貿易の問題など、アジア全体に対する日本の政策に根本的な

かかわりをもち、今後の日本の進路を左右する重大な問題が次々に日本人の前に投げかけられております。

われわれが、これら問題に対し判断を誤まらず、両国民の共通の利益を追求できるようになるためには朝鮮に対する理解と認識を深めなければなりません。

だからこそ、過去の誤れる統治政策に由来する偏見を清算し、日本人の立場からの朝鮮研究を組織的に開始することが必要な時であると考えます。

日本の大学には西欧に関する限り何千人の研究者がいるのに、現代朝鮮に関する諸般の研究を行ない、その成果を広め、朝鮮研究の水準向上に資することによつて日朝友好に寄与するため、最大限の努力を払いたいと思います。ここに朝鮮研究所の設立を決意致しました。

われわれ発起人は、微力ながら、日本人朝鮮研究者をひろく結集し、朝鮮に関する諸活動の新たな成果物であった、第三巻の卷末の解説と「日本朝鮮研究所のあゆみ」で研究所の設立の意義と研究所の諸活動の成果を詳しく知ることができます。

この研究の中心になつたのは梶村聖樹、宮田節子、桜井浩、大村益夫などの新進氣鋭の研究者達であり、こうした体制が運動の中で構成した(第1巻)。定期総会資料、運営委員会資料(第2巻所収)は研究所活動の一周年の活動と問題点を知ることができる。研究所の刊行物(第3巻所収)は巻数の都合で一部のものしか収録できなかつた。全文を収録した「日・朝・中三国人民連帯の歴史と理論」は日韓会談反対運動の中から生みだされたもので、研究所の活動の新たな成果物であつた。第三巻の卷末の解説と「日本朝鮮研究所のあゆみ」で研究所の設立の意義と研究所の諸活動の成果を詳しく知ることができます。

新潟日朝協会で活動してゐた佐藤勝巳などであつた。短命に終わった研究所であつたが、朝鮮史研究者のが、朝鮮史研究者をひろく結集し、朝鮮に関する諸般の研究を行ない、その成果を広め、朝鮮研究の水準向上に資することによつて日朝友好に寄与するため、最大限の努力を払いたいと思います。ここに朝鮮研究所の設立を決意致しました。

樋口雄一(中央大学政策文化総合研究所客員研究員、在日)

日本朝鮮研究所は一九六一年の研究所設立前後から一九六九年の実質的な解体時期まで、機関誌と種々の刊行物を発行し続けた。本書に取り上げた資料は、六一年の準備、設立から六九年までの活動と成果がわかるように時系列で構成した(第1巻)。定期総会資料、運営委員会資料(第2巻所収)は研究所活動の一周年の活動と問題点を知ることができる。研究所の刊行物(第3巻所収)は巻数の都合で一部のものしか収録できなかつた。全文を収録した「日・朝・中三国人民連帯の歴史と理論」は日韓会談反対運動の中から生みだされたもので、研究所の活動の新たな成果物であつた。第三巻の卷末の解説と「日本朝鮮研究所のあゆみ」で研究所の設立の意義と研究所の諸活動の成果を詳しく知ることができます。

われわれが、これら問題に対し判断を誤まらず、両国民の共通の利益を追求できるようになるためには朝鮮に対する理解と認識を深めなければなりません。

だからこそ、過去の誤れる統治政策に由来する偏見を清算し、日本人の立場からの朝鮮研究を組織的に開始することが必要な時であると考えます。

日本の大学には西欧に関する限り何千人の研究者がいるのに、現代朝鮮に関する諸般の研究を行ない、その成果を広め、朝鮮研究の水準向上に資することによつて日朝友好に寄与するため、最大限の努力を払いたいと思います。ここに朝鮮研究所の設立を決意致しました。

われわれ発起人は、微力ながら、日本人朝鮮研究者をひろく結集し、朝鮮に関する諸活動の新たな成果物であつた。第三巻の卷末の解説と「日本朝鮮研究所のあゆみ」で研究所の設立の意義と研究所の諸活動の成果を詳しく知ることができます。

この研究の中心になつたのは梶村聖樹、宮田節子、桜井浩、大村益夫などの新進氣鋭の研究者達であり、こうした体制が運動の中で構成した(第1巻)。定期総会資料、運営委員会資料(第2巻所収)は研究所活動の一周年の活動と問題点を知ことができる。研究所の刊行物(第3巻所収)は巻数の都合で一部のものしか収録できなかつた。全文を収録した「日・朝・中三国人民連帯の歴史と理論」は日韓会談反対運動の中から生みだされたもので、研究所の活動の新たな成果物であつた。第三巻の卷末の解説と「日本朝鮮研究所のあゆみ」で研究所の設立の意義と研究所の諸活動の成果を詳しく知ることができます。

新潟日朝協会で活動してゐた佐藤勝巳などであつた。短命に終わった研究所であつたが、朝鮮史研究者のが、朝鮮史研究者をひろく結集し、朝鮮に関する諸活動の新たな成果物であつた。第三巻の卷末の解説と「日本朝鮮研究所のあゆみ」で研究所の設立の意義と研究所の諸活動の成果を詳しく知ることができます。

われわれが、これら問題に対し判断を誤まらず、両国民の共通の利益を追求できるようになるためには朝鮮に対する理解と認識を深めなければなりません。

だからこそ、過去の誤れる統治政策に由来する偏見を清算し、日本人の立場からの朝鮮研究を組織的に開始することが必要な時であると考えます。

日本の大学には西欧に関する限り何千人の研究者がいるのに、現代朝鮮に関する諸般の研究を行ない、その成果を広め、朝鮮研究の水準向上に資することによつて日朝友好に寄与するため、最大限の努力を払いたいと思います。ここに朝鮮研究所の設立を決意致しました。

われわれ発起人は、微力ながら、日本人朝鮮研究者をひろく結集し、朝鮮に関する諸活動の新たな成果物であつた。第三巻の卷末の解説と「